

# 会 議 録

- 1 会 議 名 木更津市立公民館運営審議会第1回定例会
- 2 開 催 日 時 令和元年5月14日(火)午後2時～午後5時
- 3 開 催 場 所 木更津市立中央公民館 第7会議室
- 4 出席者氏名 **【公民館運営審議会委員】** 18名  
陶山 隆司 村上 淑子 兼近 裕美 北村 和則 西澤 功  
青木 健 市川 一成 井上 茂男 関口 由美子 清水 正夫  
秋元 豊 山田 治子 渡利 明 安藤 清康 武内 清  
清水 弘美 山下 紀世美 鶴岡 俊之  
  
**【公民館長】** 15名  
石井 一彦 (中央公民館) 佐々木 英之 (東清公民館)  
水越 学 (富来田公民館) 星野 隆弘 (清見台公民館)  
大河原 敏雄 (岩根公民館) 渡邊 祐二 (畑沢公民館)  
山本 卓人 (鎌足公民館) 玉川 剛 (岩根西公民館)  
加藤 高明 (中郷公民館) 安田 正幸 (西清川公民館)  
桑田 清行 (富岡公民館) 石井 春久 (波岡公民館)  
吉田 貞利 (文京公民館) 米澤 雅史 (桜井公民館)  
鈴木 修一 (八幡台公民館)  
  
**【金田出張所長】** 山下 要一郎  
  
**【事務局職員】** 4名  
松本 明子 (中央公民館副館長)  
小野 裕太 (中央公民館主事)  
萩野 雄大 (中央公民館事務員)  
宮城 三津子 (中央公民館社会教育指導員)
- 5 議題及び公開又は非公開の別 公開  
議案第1号 委員長、副委員長の互選について  
  
議案第2号 各種委員の選出及び推薦について  
(1) 君津地方公民館運営審議会委員連絡協議会理事の選出について  
(2) 木更津市生涯学習推進協議会委員の推薦について  
(3) 木更津市社会教育委員の推薦について

- (4) 木更津市図書館協議会委員の推薦について
- (5) 木更津市生涯学習フェスティバル実行委員の選出について

議案第3号 令和元年度各公民館重点施策及び事業計画について

議案第4号 「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について  
(公民館事業を中心に)」の意見交換

- 連絡事項
- (1) 公民館運営審議会について
  - (2) 令和元年度公民館運営審議会関連諸事業について
  - (3) その他

6 傍聴人の数 0人

7 会議概要 以下のとおり

事務局より、出席者数が2分の1以上に達した(20名の定員に対して18名の出席)ので、本会議が成立したこと、及び、本会議は公開制であることを報告。

令和元年度木更津市立公民館運営審議会第1回定例会を開会する。

委嘱後、初の定例会であることから、委員、公民館長、事務局の自己紹介を行なう。

事務局より、委員長が選出されるまでの間、仮議長による議事進行を提案する。

**異議なし、事務局一任**

事務局より、仮議長に 清水 正夫委員を指名。

<議案第1号 委員長、副委員長の互選について>

事務局より、提案理由を説明。

清水仮議長より、委員長、副委員長の選出方法がはかれる。

**事務局一任**

事務局より、選考委員会による選出方法を提案。

**異議なし**

事務局より、選考委員に 陶山 隆司委員、村上 淑子委員、安藤 清康委員、渡利 明委員、清

水弘美委員をお願いし、事務局から松本が入る旨を提案。

**異議なし**

別室にて選考委員会を開催。その間暫時休憩

安藤 清康選考委員長より、選考結果について、委員長に 青木 健 委員、副委員長に 鶴岡 俊之委員、北村 和則 委員を選出したとの報告がなされる。

**承認**

清水 正夫仮議長が退席し、青木 健 新委員長に議長を交代する。

青木 健 委員長、鶴岡 俊之、北村和則 副委員長が議長席に移動。各自の挨拶の後、青木委員長が議事を継続。

<議案第2号 各種委員の選出及び推薦について>

事務局より、提案理由を説明。

青木議長より、各種委員の選出方法がはかられる。

**事務局一任**

事務局より、事務局案提案による選出方法を提案。

**異議なし**

事務局より提案。

君津地方公民館運営審議会委員連絡協議会理事に 青木 健委員、鶴岡 俊之委員、北村 和則委員  
君津地方公民館運営審議会委員連絡協議会副会長に 青木 健委員

(任期は、平成31年4月1日から令和3年3月31日)

木更津市生涯学習推進協議会委員に 清水 正夫委員 残任期間1年

(任期は、平成30年4月1日から令和2年3月31日)

木更津市社会教育委員に 鶴岡 俊之委員

(任期は、平成31年4月1日から令和3年3月31日)

木更津市図書館協議会委員に 村上 淑子委員

(任期は、令和元年7月1日から令和3年6月30日)

木更津市生涯学習フェスティバル実行委員会委員に 陶山 隆司委員

(任期は、木更津市生涯学習フェスティバル2019が終了するまでの期間)

以上のとおり、事務局より提案し、承認を求める。

**承認**

選出された各委員より、自席にて挨拶。

<議案第3号 令和元年度公民館重点施策及び公民館事業計画について>

青木 健委員長： ありがとうございます。第3号議案「令和元年度公民館重点施策及び公民館事業計画」について審議に入ります。はじめに、中央公民館石井館長より公民館重点施策について説明を求めます。

委員の皆様には、各公民館の重点目標及び事業計画に関する資料を事前に配布しており、あらかじめ目を通していただいているかと思えます。全体を通して、何かご質問やご意見などがあれば後ほどお伺いいたしますので、よろしくお願いいたします。

**中央公民館石井館長より、令和元年度公民館重点施策について説明**

青木 健委員長： ただいま説明のありました「令和元年度公民館重点施策」について、委員からご質問やご意見を求めます。発言する際は挙手をし、お名前をお願いします。どなたかご質問、ご意見ございますか。はい、秋元委員。

秋元 豊委員： すみません9ページの「市民とともに歩む公民館活動の推進」で、これから4年間に渡って事業を増やすというふうに言われております。私、前も言いましたが、公民館の職員を見ていると暇ではないんですね。その中でこれを増やすということになると、何かを切って、効率を上げなきゃならない。基本的にこれを進める方向で行くにしても、どう進めていくのかを明確に方針を持っているかどうか、要するにマンパワーが足りないというのが現状ですので、そこをどうして行くのかを明らかにしていただきたいと思えます。

石井中央公民館長： 10ページにその目標値がございます。2022年は4年後でございますので、指標ということで、そこを目指すということでございます。もちろん秋元委員がおっしゃったように、事業の取捨選択、精選をするということも実施して参りたいと思っております。「地域課題に取り組む事業数」につきましては、もうすでに今年度から始まっている事業で、増えている事業もございますので、それぞれの目標値は達成できるのではないかと考えております。もちろん、時間外の抑制やワークライフバランスのことを視野に入れながら、各館で健康を害さないような形で仕事に

取り組むと、話がされております。取捨選択をし、その中で精査しながら、事業を展開していきたいと考えております。

秋元 豊 委員： 基本的に市民のために増やしていくのは良いと私も思っております。そういう意味では、より必要なものがどんどん変わってくるのも事実です。けれど、やはり進める側でマンパワーが足りない現状をどう克服していくのか、これは常に大きな課題になると思います。その辺を含めてずっと検討しながら進めていただきたいなというふうに思っております。ですから私は個人的には、もっと市民を、そういう部分の中心に充てて良いのではと思っております。そういうことも含めて考えていかないと今の公民館はどこも暇ではないですし、土日の開館日では、部屋の使用料を支払えない現状があるわけですから、そういう点でもやはりそこは、クリアしていかなくちゃいけない問題だと思っております。なので、今後公民館の方も、もう少し手を抜くじゃないですが、効率化を目指すことによって、住民と一緒に入っていただくとかいろんな形を考えていただかないと、絵に描いた餅になるのではないかという懸念を持っております。その辺をやはり考えていただきたいなというふうに思います。

石井中央公民館長： ありがとうございます。市民参画は大原則で、今後も公民館が事業を行っていくとき、市民の参画を大事にし、地域の各種団体、機関、学校等と連携をしながら事業の展開を進めて参りたいと考えております。

青木 健 委員長： ありがとうございます。よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。西澤委員。

西澤 功 委員： 事業を増やすという先ほどの秋元委員の質問の続きのようなものですが、無駄な事業を省いて、新しい事業を展開するという考え方があるのかどうか伺いたいと思います。

青木 健 委員長： 石井館長。

石井中央公民館長： 今実施している事業が無駄だということは考えておりませんが、その地域の特色をさらに、膨らませるような形の事業、また人と人が繋がり、それを土台に、地域づくりが展開できるような事業等々をさらに考えていくということでございます。それによって公民館の存在意義をさらに、地域の人達にわかっていただきながら、公民館の重要性などもお伝え申し上げながら、公民館を大事にしてくださる人を増やし、事業を展開していきたいと考えております。

青木 健委員長： 他によろしいでしょうか。はい、井上委員。

井上茂夫委員： 「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について(答申)」という資料の24ページに「公民館の設置及び運営に関する基準」が書かれていまして、その中の第3条に「(地域の学習拠点としての機能の発揮)」とあり、その中の2項で、「公民館は地域住民の学習活動に資するよう、インターネットその他の高度情報通信ネットワークの活用等の方法により、学習情報の提供の充実に努めるものとする」という文部科学省の告示があります。「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」という答申が出ていますが、答申の中の6ページに「性別や年齢に関係なく、新たな利用者を開拓するための工夫」という項目がありまして、「公民館活動や地域に関する様々な情報を広く発信していくために、PR方法を工夫し、広報活動に力を入れていくことも重要です。ホームページの充実やSNSの有効活用を検討するとともに、各公民館が発行している公民館だよりの充実を図ることが必要」と答申がされています。木更津市の公民館のホームページを見てみると、ここに書かれているような公民館だよりが読めるようになっていないし、印刷した公民館だよりを地域の自治会に委託して、自治会に入っている人に配るだけでなく、ホームページを見て、みんながどういう活動があるかわかるようにしないといけないと思います。文部科学省が平成15年に言っていますし、今回この答申の中でも、そういう工夫をするよう言っているのに、そういう部分が今回入っていません。

青木 健委員長： 委員からの質問および意見は、先ほど石井館長が説明した内容に限ってお願いします。井上委員の発言については、要望として受け取ってよろしいでしょうか。

石井中央公民館長： ホームページの充実については、私たちも認識しておりまして、今年度公民館の館長・職員会議の中で、もう一度ホームページの充実をすべく、今年度は職員でプロジェクトチームを作り活動するというので、一年間活動して参りたいと考えております。よろしく申し上げます。

青木 健委員長： よろしいでしょうか。

井上茂夫委員： はい。

青木 健委員長： 他にご質問等ありませんでしょうか。もしなければ、続いて各地区公民館の事業重点目標及び事業計画について、各公民館長より説明をお願いいたします。

石井中央公民館長： 公民館事業計画の14ページから17ページをご覧ください。中央公民館につい

では3つだけお話したいと思います。まず3番のポランの広場。ハンディキャップのある方を対象に、若者のボランティアスタッフと一緒に活動する事業でございます。このポランの広場は、本年度につきましてはパラリンピックの競技のボッチャなども、みんなで実施していきたいと思っております。続いて8番、新規でございますが、避難所運営マニュアル作成委員会。これは昨年度実施した中央市民講座で学んだ、木更津第一中学校区の区長及び町内会長、また地域の団体が避難所運営マニュアル作成委員会を今年度4月に立ち上げております。これによって避難所運営マニュアルを、避難所ごとに作成することを公民館が支援して参りたいと考えております。続いて15番、中央公民館の利用サークル支援事業ということで、中央公民館の利用サークルの育成支援を目指し、今年度サークル連絡協議会を立ち上げようという声がサークル側から出て参りましたので、この1年間をかけてサークル連絡協議会を立ち上げるべく、支援協力をして参りたいと考えております。

水越富来田公民館長： 富来田公民館です。富来田地区は、人口が6,000人を切っておりまして、地域の少子高齢化が非常に著しくなっております。まちづくり協議会を中心に若者の離郷、子育て世帯の減少など、地域の活性化が最大の課題であると捉えております。それを踏まえながら、資料の18ページから23ページまでが今年度の事業計画でございますが、そこに書かれている重点目標を実施していくために、富来田公民館では主に5つの方法を考えております。1つ目はサタデースクール事業の一部見直し。サタデースクール事業の方を手直ししていきたいと思っております。2つ目といたしまして、家庭教育事業への取り組みの見直し。同じく家庭教育事業の一部の取り組みを見直して新たな魅力を作していきたいと思っております。3つ目といたしまして、木更津で5番目の通学合宿の実施を検討してございます。4つ目といたしまして、引き続きまちづくり協議会事業の推進を図ってきたいと思っております。5つ目といたしまして、富岡小学校が統合されましたけども、富岡公民館との連携を密にしながら、新しく富来田小学校となった学校の方とも連携を深めていきたいと思っております。それら5つを考慮しながら、事業展開を図ってきたいと思っております。

大河原岩根公民館長： 岩根公民館より、今年度の事業について、新規事業を中心に説明いたします。館の経営方針は、「地域に根ざした公民館活動を推進し、また来たいと思う温かい公民館をめざす」ということです。昨年度を振り返ると、大きな課題として2つのことが挙げられました。一つは、「若い人の利用者数を増やしたい」ということ。もう一つは、「書道サークルがないので、何とかつukれないか」ということです。そこで、まず事業計画の6「五感で感じる絵本講座」をスタートさせます。これ

は、幼児、小学生とその保護者を対象とした講座で、年間4回、絵本の読み聞かせ、ブックトーク等を、五感（視・聴・嗅・味・触）と結び付けながら行うものです。具体的には、「音楽とのコラボ」「星空とのコラボ」「絵本の中のお菓子づくり」「自分だけの絵本づくり」を行っていく予定です。

次に、11「実用書道の練習を行うなかで、“詩書絵”を書いて楽しむ」という体験教室を行います。サークル化も視野に入れながら、思い思いの作品を作っていく活動を行う予定です。

昨年度からスタートした『いわねうたごえ喫茶』は、まちづくり協議会のコミュニティカフェ事業の一環として、今年度も月に1回行っていきます。淹れたての珈琲を飲みながらみんなで懐かしい歌を歌い、歌と一杯の珈琲を通して、人と人とのつながりをつくっていきたいと思います。

山本鎌足公民館長： 鎌足公民館では、本年度「地域力の向上を支える鎌足公民館」のスローガンを掲げ、地域力の向上の視点に立った効果的な事業運営と地域支援を行い、市民が利用しやすい公民館運営を目指してまいります。

事業の重点目標「A 地域住民とともに地域の課題を見つめ、地域に根ざした公民館活動を推進する」では、事業計画の6「鎌足むかし発見講座」、7「鎌足ふるさとたずね歩き」、9「伝統ほうきづくり研究」などの事業を実施していきます。

事業重点目標「B 子育て支援」については、4「どんぐり山の親子くらぶ」や5「幼児陶芸教室」などを実施します。また、中高年齢層の生きがい・健康づくり・仲間づくりや、子ども達の体験事業を進めていきます。

事業計画15・16では、来年度、開館40周年を迎えることから、準備を通して、鎌足公民館が生涯学習と地域コミュニティの中心となり、鎌足地区の皆さんが地元を誇りをもって生活していけるような機運がつかれるように工夫していきたいと考えています。

また、鎌足地区まちづくり協議会事務局として、地域力の向上を支えます。昨年、約4,000人の参加を得た「かまフェス」や、「避難所運営訓練」、地域交通の課題に取り組む「鎌足の足」、「有害鳥獣対策」などの鎌足地区の「自助」「共助」の力を支えていきたいと考えています。

加藤中郷公民館長： 中郷公民館の本年度の事業概要について、説明いたします。お手元の資料の32ページをご覧ください。

初めに、重点目標として、この4点を掲げました。特に、Aの「地域の関係機関・団体との連携を深め、青少年教育事業の充実を図る」という項目を1番目に掲げました。そして、Cにあるように、市民の地域活動に対して、公民館として地域の中核団体と積極的な連携を進め支援していきたいと考えております。

次に事業計画ですが、地域の中学校が統合により無くなり、同時に小学校校舎が

新築され、5年ぶりに元の場所に戻ってきました。このことは児童・生徒が激減していく中で、地域にとっては大変大きな変化です。それに伴い、地域文化祭も含め公民館として関わる事業は、実施会場や方法も大きく見直さなければならない年度と捉えています。

事業計画の1・2・3・4の「生き生き子ども地域活動促進事業」や「サタデースクール事業」についてですが、子どもが減少する中でも、中郷小学校の児童数は昨年よりも増加し、学童保育や放課後こども教室等、学童を取り巻く環境が整備されてきました。このような状況の中で、青少年育成協議会や地域のボランティアと連携し、体験学習を通して豊かな情操を育てていきたいと考えています。また、5「2019 青少年交流体験スクール」では、少子化の著しい富来田・鎌足・東清の3地区との地域間において、小中学生が交流体験を実現できるよう関連の4館と連携をしていきます。

また、清川中学校区になったことにより青少年育成協議会を清川地区の住民会議と統合していくための整備を、生涯学習課のリードのもと東清公民館とともに進めて行く予定です。

最後に17番目、まちづくり協議会は、昨年度末から区長会を中心に協議会の立ち上げをめざして進めてきました。来月の立ち上げ総会を目標に市民活動支援課の指導のもと事務局として、積極的に連携を進め支援していきたいと考えております。

青木 健委員長 : ただいま説明のありました本年度の公民館事業重点目標及び事業計画について、委員より質問を求めます。発言の際は挙手のうえ、名前を述べてお願いします。北村委員。

北村 和則委員 : 中央公民館の16ページ記載の、14番利用者救命救急講習会というのが、中央公民館だけでなく、各公民館でも開催されていると思います。公民館というのは子供から高齢者まで幅広い年齢の者が利用されていまして、サークル等も利用しており、今まで大きな規模がありませんでしたが、万が一公民館の中で、例えば階段から落ちてしまったとか、またサークルの活動の時に転倒して怪我してしまったとか、そういう事故が起きた時の対応というのをどのように考えているのか、そのあたりをお聞かせ願いたいと思います。

青木 健委員長 : 石井館長、よろしいでしょうか。

石井中央公民館長 : 基本的に各公民館で、年に1回か2回ぐらい救急車を呼ぶような事態になっております。それはつまづいてけがしたとか、いろいろなことがありますけれども、それについては必ず職員が救急車を呼ぶなど、すぐに対応するような形をとっています。もし例えば公民館の2階3階などにいるときは、自分たちで直接呼んでいただ

いて、救急車を待つような形になります。各館にAEDがございしますが、今まで実際に使うことはありませんでしたが、そういった場合の対応のために、各館でサークルと一緒に、消防署から職員を呼んで救急救命講習会を実施して、自分たちでもすぐに対応ができるような形をとっていきたいということで事業として実施しております。

北村 和則委員 : 公民館は利用者に対して、保険などは全然入っていませんよね。なので、利用者懇談会等でもって、身体を動かす運動系のサークルには、保険に入ることを勧めていただいていると思います。

青木 健委員長 : いかがでしょうか。石井館長。

石井中央公民館長 : 公民館の過失、例えば階段の手すりが壊れていたというようなことで事故が起これば、公民館の責任になると思っております。そういった場合、市の保険等で補償される場合がございますし、自分たちでさらに手厚くやっということであれば、各サークルにお任せしてあります。自分たちで保険に入っているサークルなどもございます。

北村 和則委員 : はい、わかりました。

青木 健委員長 : よろしいでしょうか。ご質問ご意見等はございますでしょうか。ないようですので、先に進みたいと思います。

桑田富岡公民館長 : 今年度、富岡小学校と馬來田小学校が統合され、富来田小学校となったこともあり、新たな地域の拠点として、富岡地区における生涯学習・社会活動の拠点として、地域に根ざした公民館活動を推進したいと考えています。

富来田公民館との共催事業につきましては、先に説明がありましたので、それ以外について説明します。事業計画6の陶芸教室につきましては、優秀な講師陣の指導のもと6月より、本格的にスタートします。今年も定員に達し、昨年度同様に和気あいあいとしながらも真剣に取り組むと思われま。

富岡地区文化祭につきましては、各種サークルの作品等や郷土芸能、文化の交流を通して、地域に根ざした活動を考えています。

その他、諸会議につきましては、当面の公民館活動の管理、運営について、地域で考える機会としたいと考えています。

吉田文京公民館長 : 令和元年度の文京公民館の事業計画について特徴的な点のみ報告いたします。

1点目は「防災学習会」です。昨年度末に「地域防災フォーラム」を開催しました。

文京公民館周辺の町内会(文京・新田・幸町)の方を対象に行いました。今年度は2回の学習会を行い、年度末には文京公民館としての「避難所運営マニュアル」を作成する予定です。

2点目は「高齢者と子どもたちとの交流の充実」です。事業重点目標が(A)から(E)まで5点あげてありますが、これらの事業を通して意図的、計画的にタイアップした事業を展開していきたいと思います。「核家族化」や「高齢者世帯」がますます増加する中で、世代を超えた事業が高齢者を元気にし、子どもたちに人との繋がり大切さや、思いやりの心を育てる機会になると思います。

3点目は住民会議主催、桜井公民館と共催で行われる「通学合宿」は今年で17回目になります。地域の多くの方々の協力を得ての事業です。

文京公民館は来年度40周年を迎えます。各サークル、地域との連携をより深め、信頼を高めていくよう今年度の事業を進めたいと思います。

鈴木八幡台公民館長： 資料の44ページをご覧ください。

今年は、4つの事業重点目標を掲げ、子育て世代・児童への対応、高齢者への対応、新旧住民の融和に対応する事業を中心に組み組んでいきたいと考えています。具体的な取組としては、以下の四点になります。

1つめは、子育て世代の増加への対応として、「めばえ」、「ひばりキッズ」、「ひばり」、「思春期」など子供の成長に合わせた4つの家庭教育学級を開設し、家庭教育、子育て支援の充実を図っていききたいと思います。

2つめは、子供たちの健全育成の一助として、ホテル鑑賞会や、ハゼ釣り体験、絵手紙づくりなど日頃できない体験活動を取り入れた学習機会を地域の方を講師にお願いし、交流を図りながら実施していきます。

3つめは、高齢化に対応した事業として、「いつまでも元気！健康講座」や「大人の教養講座、かな書道の世界」、「郷土史講座」などを実施し健康作りや仲間作り、生きがいづくりにつながる事業を推進していきたいと考えています。

4つめとしては、地域間、世代間の交流を図るため、四季の森音楽祭や文化祭の充実、まちづくり協議会と連携した事業、特に今年はコミュニティカフェの立ち上げに向けて準備を進めています。

以上、各自治会や地域の方々との連携・協力の下、「あってよかった公民館」といわれるよう各種事業の充実を図っていききたいと思います。

佐々木東清公民館長： 東清公民館の対象エリアは、JR久留里線東清川駅周辺に広がる田園地帯から中尾、伊豆島につながる農村地域と、清川1～2丁目、清見台東3丁目、ほたる野の新たに宅地造成された地区に大きく分けられますが、人口増加もほぼピークを超え、新旧住民や世代間の交流や子育て支援、少子高齢化への対応等が地域の課題となっています。そして、誰もが気軽にたどい、学ぶことができる地域の社会教育活動・

文化活動の拠点として、地域に根ざした公民館活動を推進すること。また、地域の各種団体等と連携・協力し、地域ぐるみで青少年健育成を図っていくとともに、ふれあいのある豊かな地域づくりをめざし、今年度は17の事業を展開していく計画です。

職員が全員入れ替わってしまったこともあり、基本的に前年度の事業を継続しながら進めていきたいと考えておりますが、地域の課題等に対応して、幼児家庭教育学級の見直しや新たに地域防災等に関する内容の講座を開催する予定です。

なお、学区の再編成に伴って住民会議の組織や事業内容の見直しが必要となっておりますので、昨年度に引き続き、関係機関や地区の皆さんと協議を進めていきたいと考えております。

星野清見台公民館長： 清見台公民館では、今年度4つの重点目標を掲げ、合計20の事業を計画しております。その内の主な取組についてご説明いたします。

重点目標1の学校・各種団体との連携による青少年教育の充実では、第19回通学合宿を6月30日から7月3日まで3泊4日で実施いたしますが、今年度は太田中1年生清見台小・南清小の5・6年生合わせて23名の申込みがありました。今回は、避難所となる公民館での宿泊をイメージし、地域の協力を得ながら、防災学習のプログラムを日程の一部に組み入れて実施いたします。

重点目標3の地域の課題解決に向けた事業の充実では、昨年度地域で立ち上げた清見台・太田地区防災連絡協議会を積極的に支援してまいります。今年度は、小中学校の避難所運営マニュアル作成や清見台公民館の近隣町内合同避難訓練、4町内を対象にした地区防災出前講座などを計画しているところです。

また、後期高齢者や一人暮らし世帯の増加を踏まえて、認知症や日常生活上の悩みや課題に寄り添いながら、気軽に相談しあえるような場づくりを目標にした生き生きくらしのサポート講座を実施したいと考えております。

重点目標4の地域の交流・絆づくりを促すための事業の充実では、清見台公民館関係団体連絡会が主体となり、地域の協力も得ながら、年3回公民館敷地内の環境美化活動を行っていただくことになっております。

なお、通学区域の変更により、今年度から真舟小学校区の一部が太田中学校区に編入され、世帯数が約2,500世帯、人口が約5,000人増加いたしました。それに伴い、5月から、公民館だよりを請西南地区と清見台東3丁目に新たに回覧していただくことにいたしました。

青木 健委員長： ありがとうございます。委員から、ご意見ご質問等はございますでしょうか。ないようですので、続けます。

渡邊畑沢公民館長： 畑沢公民館の特筆すべき事業と致しまして、まず青少年事業は、体験事業を開催

します。地域活動の充実を踏まえ、まつりの担い手活性化、夏祭り前に篠笛づくりを実施し、さらに通年実施しているハートフル王国(「子ども達が企画実行委員となり王国を運営」)を継続します。

次に成人教育事業は、男性の利用者が少ない課題、定年後の充実した人生を考え「おやじ専科」を継続開催します。こちらは約40名近い「おやじ」が集い、趣味や学習など主体的に活動しています。

次に地域課題を解決するための事業では、ボランティア講座を継続開催します。今年度は、傾聴の仕方を学び、公民館にコミュニティの場を構築するべくコーヒーの入れ方等を学んでいきます。また、実現できるかわかりませんが、自立支援課と協力して、サポステの相談者にもコミュニティカフェ等の運営機会を提供し、地域の協力の下、社会貢献できる講座を模索していきます。また、次世代の育成のため、子どもボランティアの体制も模索していきます。

玉川岩根西公民館長： 岩根西公民館の令和元年度重点目標及び事業計画についてご説明いたします。

岩根西地区は、自然豊かな農村地帯と旧来からの潮干狩り場に代表される漁村の自然あふれる地域ですが、その反面、発展著しい金田地区の影響も、多少なりとも影響を受けつつあり、人口については近年横ばいとなっています。

こうした現状を踏まえ、この地区では、自立的かつ積極的に活動の幅を広げている「岩根西地区まちづくり協議会」を中心に、それぞれの地域団体と連携しながら、公民館活動、地域活動を一体となって考えていく必要があると考えています。

そこで、今年度は、5つの事業重点目標を掲げ、この目標に沿って、地域住民と協働・協力・支援しあいながら、健全な青少年育成や人づくり・地域振興を目指し、事業を進めてまいりたいと思います。

当公民館の事業計画につきましては、特段大きな変化はございませんが、主に昨年度新規開催しました「岩西おしゃべりカフェ」、いわゆるコミュニティカフェですが、これを更に発展した形を目指し、計画を検討しております。

昨年度は、初年度と言うこともあり、『上総ふまねっとの会』とのコラボ開催による地域のサロン化を目指しておりましたが、他の開催方法も検討し、更なる集客アップと、地域のつどいの場としての定着を図って参りたいと思います。

また、館の主催事業として、スイーツの講座を計画しており、コーヒーを提供するボランティアスタッフだけでなく、幅広い参加者を呼び込むため、スイーツを提供するスタッフの養成にも取り組んで参ります。

なお、このコミュニティカフェにつきましては、「岩根西地区まちづくり協議会」の主催事業という位置づけで開催しており、備品類や予算面においても、全面的なご協力のもと、開催しております。

安田西清川公民館長： 令和元年度、西清川公民館では、「だれもが気軽に立ち寄ることができる、地域

に根ざした公民館」をスローガンに掲げ努力していきたくと思います。

重点目標は、「A 家庭教育に関する学習機会の充実」「B 地域ぐるみの青少年の教育事業の展開」「C 高齢者の生きがいや健康づくりの促進」「D 地域の絆づくりの促進」「E 安心して暮らせる地域社会の構築」の5点で、23の事業を計画しています。

昨年度は、昨年7月から今年の1月まで工事の関係で館が使用できませんでした。主催事業については、回数を削減したり、場所を変えたりしながら何とか実施してきました。本年度はそういう心配はありません。熱心で協力的な地域の関係機関と連携を図りながら、計画した事業をしっかりと実施していきます。

近年、力を入れているのは「にしきよ防災学習会」です。これは、「西清川まちづくり協議会」との共催です。地域住民の防災意識のさらなる高揚と交流の拡大を目的としています。毎年2回、防災施設又は地域防災の先進地等の視察を行っています。本年度は7月に県北の大利根分館、11月にアクアラインの地下道の視察を予定しています。

結びになりますが、「だれもが気軽に立ち寄ることができる、地域に根ざした公民館」にするためには、事業の充実と共に、私たち職員の元気な挨拶と笑顔が不可欠だと思います。職員が大幅にかわったこともあり、地域の方々と早くしっかりとした絆を作っていきたいと思っています。

石井波岡公民館長： 令和元年度、波岡公民館では、「未来に地域の絆を深めよう なみおか」を目標とした公民館活動を推進いたします。波岡地区は、大久保団地が造成されて40年を超え、高齢化率も非常に高くなっております。高齢世帯をどのように支えていくかは地域全体の課題であり、公民館活動における課題でもあります。

以上のことをふまえ、重点目標としては、資料のとおり5点を挙げています。その中で、特に地域課題をテーマに取り上げた2つの講座について説明をいたします。

まずは、4年目を迎えた波岡健康講座です。「波岡地区の検診結果における課題」、「コレステロール」、「血压」ときて、今年度は、「糖尿病」について取り上げます。座学による知識の習得のほか、調理実習や簡単にできる運動についても取り上げるなど、様々な方法で健康についての学びを深めていきます。

もうひとつは、地域での防災をテーマにした「備え人養成講座」です。昨年度、避難所運営マニュアルがとりあえず完成しました。今年度は、このマニュアルに沿った避難訓練を実施し、マニュアルの改善・修正を図っていきます。

公民館は地域のセーフティネットの大切な核を担っていることを意識し、公民館活動を行っていきたいと考えています。

米澤桜井公民館長： 桜井公民館の米澤です。よろしくお願ひ申し上げます。平成31年度の主な事業でございますが、資料の80ページをご覧くださいと思います。

「A 家庭教育、子育てに関わる事業の充実」「B 子どもたちのさまざまな体験学習に積極的な取り組み」「C 中高年の学習活動の充実」「D 地域内世代間交流の推進」「E 町内会や地区内各種団体と連携し、地域の豊かな文化づくりの拠点としての公民館活動の充実」の5点を重点目標に掲げ、地域の関係機関と連携を図りながら、31の事業を計画いたしました。

特に、地域課題である「若い世代も公民館に」を目指し、「D 地域内世代交流の推進」に焦点をあて、18 星空観察会、19 桜井将棋倶楽部、20 桜井海苔まつり、21 桜井よもやま話などを計画し、子どもから高齢者までの世代間交流を深めていきたいと考えています。

新規事業といたしましては、今日的な課題への対応として、29 スマホアプリ活用講座、30 避難所運営マニュアル管理事業を計画しております。以上です。

青木 健委員長 : 委員よりご意見、ご質問を求めます。村上委員。

村上 淑子委員 : 全公民館を振り返ってでもよろしいですか。今全公民館の事業計画をお聞きして、こんなにたくさんの事業を、初めに秋元さんが職員の大変さをお話されていましたが、膨大な数でありながら、しかも、職員の数が少ない、同じ人数ではないので、それぞれの公民館で負担も大きいのだろうに、事業を増やすということで苦労されてるのではないかと感じております。仕事量を想像して、同情の気持ちになりました。議案第3号の方で、今年度の事業計画について取り上げられていますけれども、資料の86ページに30年度の公民館利用状況っていうのが資料として挙げられていて、私はこれを見て、何人かの館長さんが地域の人口のことも取り上げている方がいらっしゃいましたが、それぞれの公民館の地域の特徴と人口等も大きな理由の一つになると思いますが、表の左側の利用回数の欄の主催事業という項目がありますが、この主催事業は、延べ回数だと思いますが、地域の人口等の割には随分と差が大きいと感じます。改めて主催事業ということについての説明と、それから回数の差、各公民館の特徴でもあるかと思いますが、この数の大きな差が気になったので、説明をお願いしたいと思います

青木 健委員長 : 石井館長よろしいですか。

石井中央公民館長 : 主催事業につきましては、公民館が主催する事業ということでございます。継続的な年間通しての事業、例えば月に1回ずつやっていけば12回の事業。単発で行えば1回の事業。その回数が加算されたものでございます。例えば八幡台公民館などは昨年度耐震工事で使えなかった時期が半年以上ございます。また西清川公民館なども閉館していた状況もございますが、他の施設を使いながら、主催事業を行っていたというところでございます。この主催事業につきましては全館で1, 8

43回でございますけれども、その前の年の回数が1,623回でございますので、各館一生懸命頑張って200回ほど回数をふやしているような状況でございます。

青木 健委員長 : よろしいでしょうか。

村上 淑子委員 : 事業の特徴によってこの回数の差があるということですね。

青木 健委員長 : そうですね。よろしいでしょうか。他にご意見ご質問等ございますでしょうか。

北村 和則委員 : 各公民館で色々な講座を開いていると思いますが、防災に関して、地域住民がどの程度関心を持っているのか、そして公民館だより等の中で募集、案内をしていると思います。そういった講座の内容、中身について、テーマをどのように決めているのか。そして参加がどの程度あるのか、百分率、パーセンテージでお願いします。

青木 健委員長 : よろしいですか、石井館長。

石井中央公民館長 : 講座の中身の検討につきましては、できるだけ市民参画、地域の人達と一緒にまた各種団体、機関の方々と公民館職員が一緒になって作り上げていこうという方針で進めておりますので、公民館職員だけが考えて作っていくことは少なく、地域の人達と一緒に事業を作り上げているというふうに思っております。またそれぞれ講座によって、参加の状況についてはいろいろあると思います。中央公民館につきましては、できるだけ参加される方は拒まないように、定員を30名としても、追加で5名、10名という形で参加したいという学習意欲を持った方がおいでになれば、参加していただくような状況を作っております。他の公民館についても、そのような形で進めているのではないかと考えております。

青木 健委員長 : 他の公民館で募集した人数を下回り、人数が集まらなかった講座はありますか。参考でお聞きしたいのですが。あまりにもかけ離れてしまうということはないですか。

水越富来田公民館長 : 富来田公民館ではないですが、昨年度在籍した金田公民館で、地域状況の中で、特に関心が深かったということで、相続の関係の講座をやってもらいたいということで、事業を行いました。当初の予定を大分下回りまして、5名しか集まらなかった状況がございました。時にはそういうことがあるのではないかと考えております。

青木 健委員長 : ありがとうございます。よろしいでしょうか。

北村 和則委員 : あともう1点聞きたいのが、公民館だよりについて、中央公民館の場合は、公民館の職員が各区長のところにお持ちして、各区長が回覧板と一緒に配布しています。他の公民館も同じように配付しているのでしょうか。それとも配付方法がことなるのでしょうか。

青木 健委員長 : 石井館長。

石井中央公民館長 : 原則同じ形になっております。

北村 和則委員 : はい、わかりました。

青木 健委員長 : 補足しますが、私は区長をやっておりまして、自分の区の回覧を回す時に、回覧版の板に「公民館報あります。必ず取ってください。」と一言付け加えております。以上です。あと他にございませんか。はい、村上委員。

村上 淑子委員 : 昨年から公民館の使用料を有料化されたと思います。主催事業に関しては件数が増えています、一般団体・サークルの利用は増えているのか、減っているのか教えていただきたいと思います。

青木 健委員長 : 石井館長、お願いします。

石井中央公民館長 : これは調査中でございます。実際に有料化に伴って減少したのか、それとも高齢化等々によってサークルの活動が少なくなっているのか、その辺はまだ詳しく調べておりませんので、必ずしも有料化によって減少したということにはならないと考えておりますが、全体で約1割程度、昨年より利用者が減っております。

青木 健委員長 : あとはどなたか質問はございますか。もしなければ次に行きたいと思っております。金田地域につきましては、金田出張所の山下出張所長をお願いします。

山下金田出張所長 : 4月に、金田地域交流センターがオープンし、金田公民館は3月末で閉館となりました。そこで、金田地区の生涯学習につきましては、市民部金田出張所が担当をいたします。

予算については、生涯学習課に計上されている「金田地区生涯学習振興事業」として、実施をしております。

実施する事業につきましては、お配りした資料のとおりです。金田地区では、新しい宅地造成に伴う、若い世代の人口増が続いており、乳幼児の親を対象とした「な

かよし倶楽部」は、地域の課題として子育て支援に取り組んでまいります。

また、新しい住民との交流の機会として、まちづくり協議会主催による「コミュニティカフェ」や、青少年育成会議主催の「通学合宿」なども事務局として、取り組んでまいります。加えて、新しく来た方に従来からの「金田」を知って頂く機会も作っていく予定です。

他にも、センター指定管理者である「三幸」とも連携しながら、文化祭の実施や料理教室の共催事業にも取り組んでいきます。以上です。

青木 健委員長 : ただいま説明がありましたが、ご意見ご質問等ありますでしょうか。北村委員。

北村 和則委員 : 今の説明がありましたけど、金田地域交流センターも有料だと思いますが、8月からオープンしまして、使用状況はどの程度なのか、稼働率を取ってもらいたいと思います。

青木 健委員長 : よろしいですか。

山下金田出張所所長 : 貸し出しにつきましては、指定管理者の三幸が行っておりますので、詳しい数字はわかりませんが、感覚としましては、金田公民館のサークルの8割が交流センターでも活動しています。ただし金田公民館の部屋数が5つであったのに対して、交流センターの部屋数は12ありますので、稼働率は非常に低い。周知がまだされていないという状況であると感じております。具体的な数字は本日持ってきては持ってきていません。すみません。

青木 健委員長 : よろしいですか。

北村 和則委員 : はい。ありがとうございます。

清水 正夫委員 : 新しくできました金田地域交流センターですが、特に懸念されるのが、例えば、行事等が土曜日曜に重なった場合、皆さんご存知の通り金田地域にはアウトレットなどいろいろな施設ができて、とにかく渋滞がすごい状態です。日曜日はあまり活動ないと思いますが、特に土曜日に重なった場合、そのアクセスがどうなっているのか。もしかしら行きたいと思っても行けなかつたりするのではないのでしょうか。金田の住民の人に聞きますと、土曜日曜に限っては、家から出られないというようなことを仰ってまして、あそこら辺一帯は、他県から来る車等もあり、とにかく身動きが取れない状態です。その中でこういった施設ができました。稼働率や利用状況等に支障があるのではないかと、ということを私は懸念していますが、その辺はどうなのでしょう。

青木 健委員長 : わかる範囲でお願いします。山下出張所長。

山下金田出張所所長 : 詳しくはわかりませんが、金田はアウトレットができましたし、それ以前から潮干狩りの時期は大変混雑するという状況は、センターがオープンしてからも変わっておりません。そのため、土日に利用される方はそのことを十分承知の上で使っているのではないかと感じております。センターがいっばいで渋滞になったことはないと聞いております。その辺りを承知していただいた方が使っていると感覚的には思っております。以上です。

井上 茂男委員 : 今年の10連休は、ほとんど渋滞がありませんでした。私は金田バスターミナルから200メートルというところに住んでいますが、もうほとんど流れていました。

青木 健委員長 : ありがとうございます。あと他にご質問ご意見等ございますか。ただいま令和元年度公民館重点施策及び事業計画について概要の説明がありました。少ない職員体制の中でご苦勞も多いとは思いますが、地域住民とともに、地域課題に取り組みながら生涯学習及び地域づくりの拠点としての公民館活動がさらに充実されますことを期待しております。

議案第4号「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」

青木 健委員長 : それでは、審議を再開します。次に、議案第4号「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について」意見交換を行います。  
はじめに、石井中央公民館長から説明をお願いします。

#### 石井中央公民館長より説明

##### 説明内容

##### 【平成30年度の公運審の審議状況】

平成30年度 木更津市立公民館運営審議会第2回～第4回定例会で、「地域づくりとこれからの木更津市の公民館事業のあり方について(答申)(木更津市立公民館運営審議会平成28年3月)」をもとに、3つの意見交換の題材を挙げ、今後、公民館の総合整備計画を策定していくための進捗状況と意見交換をした。

##### 【意見交換の題材】

##### 1. 施設(現在の公民館)とこれからの再配置計画について

- (1)「公民館の配置については、1中学校区に1公民館を基本に進めてきたが、耐用年数等による建替えの際は、都市計画の地区区分である8地区を基本に統合を進める。」と記載されていることについて、どう考えるか。
- (2)「公民館と学校、その他施設の複合化を進めることにより、地域拠点としての機能向上を図る。」

と記載されていることについて、どう考えるか。

(3)「金田公民館は(仮称)金田地域交流センターへ機能移転する…」と記載されていますが(金田地区の社会教育が)どうあったらよいと考えるか。

2. 職員体制について

3. (公民館)事業について

青木 健委員長： はい、ありがとうございました。ただいま石井中央館長よりお話ありましたが、今の内容につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

秋元 豊委員： 先ほどの説明の中に、金田公民館が金田地域交流センターに変わる意味が、地域の役員やサークル・団体は、まだよくわかってないという委員の意見があったというところですが、現実的にはわからない方が非常に多いと思っています。そのあたりを、公民館としても利用団体にももう少し詳しく、わかりやすく説明をまずしていただきたいと思います。それともう1点ですが、公民館を抱えている部署は公民館の必要性をよくわかっていると思います。しかし残念ながら市役所の上層部に行くと、それが全然理解されていないのではないかと思います。あくまでも効率論的にいけば複合施設は職員が集中して非常に便利になりますよね。ところが、今までの公民館の歴史といいますかその前にさかのぼると、複合施設からどんどん分散してきた経過が今まであるわけです。そういう流れでまた統一化をしていく流れに変わってきてはいるのですけれども、あくまでも効率論的にいえば、それは非常に管理しやすい、人の配置をしやすいという認識の下で行われています。そういった点で、市の上層部がそういう発想なのではと思います。実際に公民館の必要性和公民館が行っている事業内容をどれだけわかっているのか。残念ながら、あまりわかってない方が上層部に多いのではないのかと思っています。少なくとも公民館としては、上層部の人たちを集めてしっかりと勉強させることが必要だと思っていますので、そのあたりを上に強くいうのと、利用者にわかりやすく説明をしていただきたいと思っています。

石井中央公民館長： まず一つ目の利用団体や地域の方へのわかりやすい説明につきましては、先ほど金田張所の山下所長が来ておりましたが、その旨話をしながら、もし公民館が協力できることがあれば、説明に行くようなことをしていきたいと考えております。あと上層部の理解につきましては、公民館の役割の重要性については理解していると認識しております。まちづくり協議会、また危機管理課との連携で、避難所運営マニュアルを作成する役割を公民館が担っているのだというようなところなども示しながら、公民館の存在意義を伝えていくような努力はしていきたいと考えております。

青木 健 委員： 他にございませんか。もしなければ第4号議案まで、慎重審議、本当にありがとうございました。木更津市民として今後公民館がどうあって欲しいのかを、市内外の状況を学びながら今期2年間をかけて審議していきたいと思います。  
次に連絡事項について事務局よりお願いいたします。

**事務局より連絡**

青木 健 委員： はい、ありがとうございました。  
以上ですべての議事が終了いたしました。  
教育委員会が公民館原則無料から原則有料化へ大きく舵を切り、使用料の有料化が始まり1年が過ぎました。私たち利用者もようやく慣れてきたというところかと思っております。  
ただ、公民館や地域との関係は前と同じ関係が保たれているでしょうか。公民館運営審議委員として、その微妙なところを時折気にかけることが大事かと思えます。積極的に地元の公民館に立ち寄り、職員や利用者に気軽に声をかける機会を作っていきたいと思っております。  
これからも皆さんのいろいろな言葉をお立場からの意見が、とても貴重なものになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。  
これをもちまして、木更津市立公民館運営審議会第1回定例会を終了いたします。ありがとうございました。

以上で全ての議事を終了し、第1回定例会を閉会した。

令和元年5月14日

議事録署名人 木更津市立公民館運営審議会委員長 青木 健